

学校法人 三井学園
理事長 玉田 英子 殿

学校関係者評価委員会

平成 28 年度学校関係者評価とりまとめ報告書

学校関係者評価委員は各区分ごと 1 名、計 5 名となっています。

区分
業界関係者、保護者、評議員、卒業生、地域住民

1. 参考資料

平成 28 年度事業報告書（重点目標含む）、自己評価とりまとめ報告書ほか

2. 自己評価検証

自己評価とりまとめから検証を行い、内容については適切との意見を取りまとめた。一方で改善については以下のような意見を取りまとめた。

（1）学校の理念・使命・ビジョンについて

意見にあるように、将来ビジョンを明確にして教職員にも広く周知するようにすべきである。

（2）組織運営・人事システムについて

意見にもあるように、教職員ともに研修を実施し、学校運営の質を高めるべきである。

（3）学生指導について

- ・キャリア教育も含めた進学指導も行うべきである。
- ・卒業生を追跡調査し、当学校の継続的な評価を確認する仕組みを作るべきである

（4）日本語指導について

- ・授業で使う補助教材を統一すべきという意見には賛同する
- ・社会に出て困らないコミュニケーションの力をつける仕組みを考える必要がある。

（5）学生からの評価について

満足度が他に比べると低い授業の狙いや補助資料について研修を含めた質の向上で対応すべきである。

2. 重点目標の取り組みの検証

平成 28 年度に掲げた重点目標は以下のとおりである。

（1）キャンパスの整備

（2）進学指導を含めた教務力の向上

- (3) 業務改革を含めた財務基盤の強化
- (4) マーケティング・募集の強化
- (5) BCP計画の作成

これらの目標に対しては、当委員会では一定の成果があったとの意見で一致した。特にハード面では、学生の学習環境の改善に資する第2校舎の整備は特質すべきものであると考える。

(2)～(5)のソフト面は継続して実施していただきたい。また、(5)のBCPについては訓練を含めた実効性ある計画に仕上げていくべきとの意見が出た。

3. その他

学生が多くなっていることを踏まえ、近隣住民に迷惑をかけるような行動(歩き喫煙など)をさせない教育を普段から実施すべきである。また、交通安全や防災訓練も新入生の入学時期および適宜に実施して地域に貢献できる学校づくりをしていくべきとの意見が出た。

欠席や遅刻に対しては厳しい指導をしてもらいたい旨の意見が出た。

地域の住民の方々と文化交流できるプログラムを作って開催したらどうか、との案が出た。卒業生に対しては意見交換のできるSNSサイト等を立ち上げて意見を吸い取ってはどうか、との案が出た。

以上